

科目担当者氏名		科目担当者連絡先 (メールアドレス)	
(ふりがな)	おおおか えみ 大岡 栄美	[REDACTED]	
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
(ふりがな)	なかの やすと 中野 康人	関西学院大学 社会学部	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習I		21	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：社会調査の設計・立案から実施、ヒアリングで得られた質的データの分析、報告書の作成まで、社会調査に関する一連の実践を学生中心に行った。調査フィールドである西宮市卸売市場では、秋のおおろち祭りを出店をしながら、来場者アンケートを実施した。調査に協力いただいた、西宮市役所、事業者向けの報告会も計2回実施し、調査結果をフィールドに還元できた。現実の社会課題をテーマとし、行政や事業者と関わりながら調査・政策提言を実施できたことで、学生もやりがいをもってプロジェクトに取り組むことができた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：西宮市をフィールドに「西宮市地方卸売市場」を地域資源として活用することで、個人化が進む時代における地域活性化策を考えることを研究課題とする。
2. 調査の内容/概要：卸売市場事業者を対象としたヒアリングによる、卸売市場の課題の理解。卸売市場利用者としての「市民」へのアンケート調査
3. 調査の範囲/対象 (量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入)：調査1年目として、そもそも卸売市場がどのような課題を抱えているのかを理解するため、計11の事業者に聞き取りを行った。
4. 主な調査項目：現在困っていること、卸売市場の魅力、やりがい、防災 (阪神淡路大震災時の状況や現在の防災対策)、移転後の展望など

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集 (現地調査) の方法：3回に分けて、事業者を訪問。4名の調査員が、インタビュアー、書記、写真係に分かれ、聞き取りを行った。来場者アンケートについては、お祭り来場者に、「市場の現状での存続や移転」についての意見を聞かせてもらった。
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：ヒアリング調査：2016年6月から7月にかけて市場の計11の事業者ヒアリングを実施。調査員：12名。来場者アンケート：32名
7. 収集したデータの量と質への評価 (量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入)：事業者、来場者アンケートともに、調査設計が不十分であり、数的には十分なものとはいえなかった。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：ヒアリング調査については、内容を質的に分析し、課題の割り出しとそれを踏まえた政策提言に活用した
9. 調査の成果 (調査から得られた主な知見など)：卸売市場自体の周辺市民の市場の認知度はかなり低下している現状が浮き彫りになった。また事業者間の関係性があまりうまく機能しておらず、活性化について方向性を決めて進めていくのが困難な状況が明らかになった。その調査結果を得て、1) 健康をテーマとした新たなコミュニティとしての卸売市場の活用、2) 防災拠点としての活用などを提案した。
10. 報告書刊行の予定と概要：報告書は2016年度1月末に刊行し、1月には調査フィールドの関係者に配布を行い、簡単な報告会を実施した。

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。